

弁理士ジョージの相談室 Q & A

様々な手続で押印が不要になったという話を聞きました。これで、特許庁に対する申請手続も全て押印を省略できるのですか。



いいえ、全ての手続の押印が省略できるわけではありません。偽造の被害が大きいと考えられる手続(33種)については、当面の間、押印が必要です。



なるほど、出願人の名義変更届などは、偽造の被害が大きいのですから。



そうですね。このような運用の変更に伴って、押印を存続する手続の運用も変更になっているので注意してくださいね。



具体的には、どのように運用が変更されるのですか。



新規に印鑑を用いる場合、基本的には、実印と印鑑証明書が必要になります。



私の場合、既に特許庁に届け出た印鑑が存在するのですが、届出印での手続ができなくなるのですか。



令和3年末までは、届出印での手続が可能ですが、令和4年1月1日以降は、求められた場合に印鑑証明書が提出できない印鑑の使用ができないので、確認してみてください。



事前に確認しておいてよかったです。ありがとうございます。

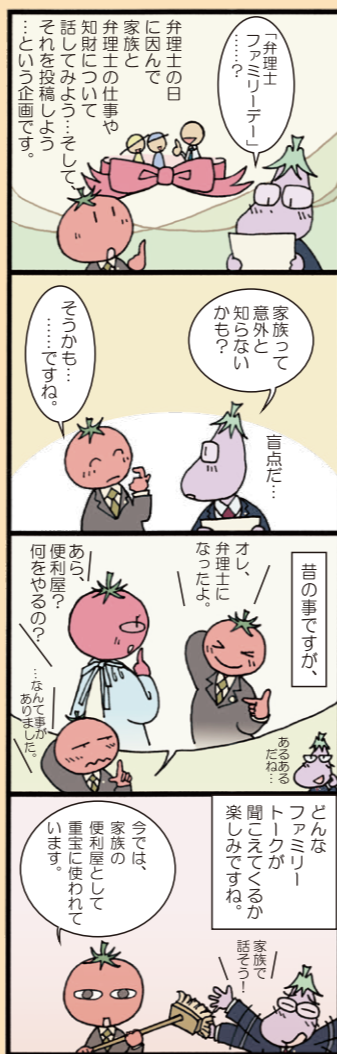


日本弁理士会マスコットキャラクター“はっぴょん”

「はっぴょん」は弁理士制度100周年に当たる1999年に誕生しました。?マークが帽子をかぶっているようで面白いでしょう。「はっぴょん」の名前の由来は「アイデアが「はっ」と湧いたら「びょん」と弁理士に相談してね」です。はっぴょんは、私たちの生活に関わる知的財産についてわかりやすく教えてください。

なすびくんの仕事

版和之(作) 飯岡菜子(画)



PATENT Attorney

パテント・アトニー

VOL.103
2021
日本弁理士会広報誌
秋号

「PATENT ATTORNEY」は「弁理士」のことです。



【ヒット商品はこうして生まれた!】

ヒット商品を支えた知的財産権

機能性を重視したベビーウェア

「ラップクラッチ、ラップコンパクト」

- シリーズ特産品(会津本郷焼)
- 知っておきたい! この技術
- トレンドでつく「がんの早期診断」
- 知財miniトリビア

- 弁理士ジョージの相談室
- 漫画「なすびくんの仕事」
- 特許庁からのお知らせ
- JCAA Information



特許庁からのお知らせ

オンライン特許庁見学の
申し込みページを開設しました!

オンライン特許庁見学

JAPAN PATENT OFFICE TOUR



- オンライン特許庁見学を始めました!
- 実際に足を運ばずとも、特許庁業務の雰囲気を知ることができる内容となっています!ぜひご参加ください。

なお、コロナ禍の影響で実地での
庁内見学は現在休止しています。

▼特許庁見学のご案内



「特許庁見学のご案内」頁リンク

<https://www.jpo.go.jp/news/koho/kengaku/index.html>

JCAA Information

知財を活用!
農林水産ビジネス



- 地理的表示(GI)や品種登録(種苗法)、知的財産権に関する各種手続き等について、弁理士が無料で相談に応じます。詳細は、以下の特設サイトよりご確認ください。

▼詳しくはこちらへ



農林水産知的財産特設サイト

【URL】 <https://www.jpaa.or.jp/nousui-ip/>

ヒット商品はこうして生まれた!

ヒット商品を支えた

知的財産権

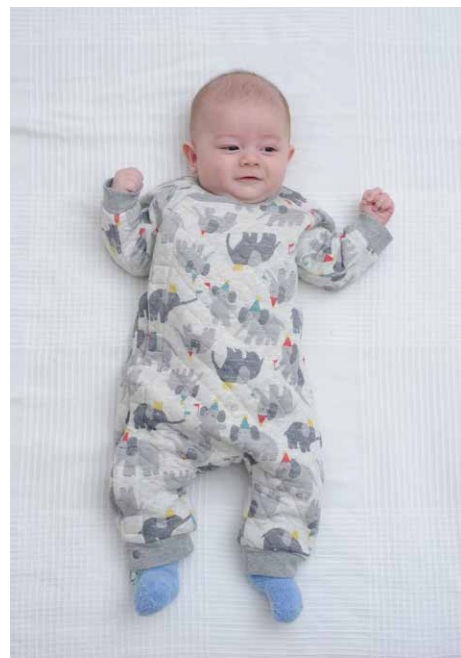
[vol. 103]



ラップクラッチ、ラップコンパクト

【特許】第3604350号、第4846418号、第3802851号

【商標登録】第4542683号、第5123581号



重ね着するのが主流だった。これを短肌着と、上に着るウェアの2枚で済むようにしたのがラップクラッチだ。また従来のベビーウェアは股ぐりを中心に10個ほどの樹脂製スナップで留めるもので、おむつ替えや着替えの度に手間取っていた。おむつ替えは1日に10回以上になる。ラップクラッチは股ぐりを縫い合わせ、左脚側はズボンのような形状にし、右側の打ち合わせ部分を面ファスナーでワンタッチで閉じられるようになっている。採用されている面ファスナーは赤ちゃんの肌に優しいものを独自に開発し、位置によって硬さや毛足を変えて、赤ちゃんの肌を守ると同時にしっかり留まるように工夫されている。2002年の発売当初からアンケートなどでユーザーの声を聞き、面ファスナーはこれまで30回以上改良してきたという。

機能性を重視したベビーウェア

コンビネクスト株式会社のベビーウェア「ラップクラッチ」「ラップコンパクト」シリーズは、おむつ替えを容易にする機能性の高さなどからロングセラーとしてユーザーの支持を得ている。ベビーカーなどのメーカーであるコンビ株式会社が開発していた「コンビミニ」ブランドなどアパレル部門を分離独立させ、2009年に設立したのが同社だ。

ラップクラッチは「赤ちゃんと育児をする人に笑顔を」というコンセプトで開発された。赤ちゃんの肌を守り体温調節の役目もあるベビーウェアは短肌着、長肌着など3枚ほどを

な特徴だ。さらにトレンドに合わせてデザインを更新していることが、多くのユーザーを獲得している要因となっていると、商品開発に携わってきた同社の尾崎和樹さんはいう。だが「機能をアピールして売りたいのですが、衣類は見た目では機能性が伝わらない」ことから、販売戦略は今も苦労があるそうだ。

ラップクラッチ、ラップコンパクトはいずれも特許を取得している。出願を手がけたコンビ(株)開発統括グループの鈴木英二郎さんは「開発者からアイデアをまねされないようにしてほしいと要望され、最初は戸惑いました」と振り返る。ベビーカーやチャイルドシートは形がしっかりしているが、布は形が変わってしまう。図面も特許図面として認められるのか不安だったが「思いのほかすんなり登録できた」という。ラップコンパクトも「新しいアイデア」として特許出願を要請されたが、こちらは引用例がかなり出て「本気で苦労」し、登録になった時は大きな達成感があったそうだ。ラップクラッチの類似品は少なからず出てきたが、特許技術であると通告することで排除できた。また広告に特許番号を記載し、機能性と独自性をアピールしてブランドを守ってきた。コンビミニブランドを牽引する二つのシリーズでの特許取得は、社内の知財意識を高めるインパクトも大きかったという。



シリーズ JAPAN 特産品

会津本郷焼

商標登録：第6333681号



東北最古の窯場といわれる会津本郷焼の発祥は1593年。会津若松城主・蒲生氏郷がお城の改修のために播磨国(兵庫県)から瓦工を招き、瓦を焼かせたのが始まりといわれています。はる

か400年以上も前、安土桃山時代のことでした。

実際に本郷の地で焼き物が焼かれ始めたのは、1645年。会津藩主・保科正之が招いた美濃国瀬戸出身の陶工・水野源左衛門が本郷村に原土を発見し、本格的に陶器製造を始めました。これが会津本郷焼の陶器の起源です。

一方、磁器は1800年までその登場を待ちます。本郷村で発見された大久保陶石で磁器を作ろうとした藩は、佐藤伊兵衛を有田に潜入させます。命がけて技術を習得した伊兵衛の帰国後、藩は備前式登窯を築きました。

会津藩は本郷に奉行所を置き、藩の産業として焼き物に力を入れておりましたが、奉行所の廃止により職人たちに残土、工具が分け与えられ、職人たちはそれぞれの窯を築き、焼き物を作り始めました。それが窯元の始まりです。

会津本郷焼には、瓦焼の流れをくむ土物(陶器)と、大久保陶石を原料とした石物(磁器)があります。石を原料とした焼き物の産地としては、関東以北唯一です。会津本郷焼の全盛期には、大小合わせて100以上の窯元があり、本郷の上り窯から煙が立ち上らぬ日はなかったといわれていま

す。急須、土瓶、目皿、花器が有名ですが、特に急須については、明治末期に本郷の陶工が茶こしの部分を発明し、急須の出がよいことで日本一の折紙付になりました。

毎年9月16日、会津本郷では陶祖祭を行い、陶祖・水野源左衛門、磁祖・佐藤伊兵衛の2人をしのびます。



The traditional Aizu Honkou Pottery has been passed down since 1593 and continue developing.

会津本郷焼 AIZU HONGOUYAKI

このコーナーに掲載御希望の方は、「特産品」のプロフィール・連絡先を右記までお送りください。 Fax 03-3519-2706 Mail panf@jpaa.or.jp

知っておきたい!この技術

トレンドてっく

シリーズ 44

がんの早期診断

血液に含まれるマイクロRNAの解析によって、血液1滴でがんの早期診断が可能になった。マイクロRNAは遺伝子やタンパク質を制御する、塩基の短い核酸物質である。その解析が進み、がん治療に当たる医療機関ではがんの種類ごとに特徴的なパターンのマイクロRNAのデータが累積されてきた。2014年に官民共同の「体液中

RNA測定技術基盤開発」プロジェクトがスタートし、その成果として生まれた技術である。

ポイントとなるのは、電気化学的にマイクロRNAを検出するデバイス、DNAチップ(DNAマイクロアレイ)だ。ガラスあるいはシリコンなどの基盤にDNAの断片を多数固定したもので、新薬開発などに活用され、アメリカをはじめ世界中の企業が製造販売している。がん早期診断は日本の独自技術により、世界に先駆けて実現した。肺がん、胃がんなど13種類のがんのいずれか、あるいは乳がんなど特定のがんの検査技術が確立されつつあり、いずれも短時間で高い精度で診断ができるという。

マイクロRNAは心筋梗塞、脳卒中などの循環器疾患、うつ病、認知症などの診断にも役立てられることが期待され、この分野での研究も進められている。



知財 mini トリビア

第3回 とても短い請求項の特許

特許権の権利範囲を定めるものとして重要なのが「特許請求の範囲」です。これは「請求項」に区分して記載する必要があり、その作成にはとても頭を使います。一般的に、文字が増えるほど権利範囲が限定される傾向にあることから、広い権利を確保するには、請求項はできるだけシンプルであることが望ましいといえます。

とても短い請求項の特許を何度か目にしてきました。私が著書で紹介したものとして、「卵豆腐を油で揚げた揚げ出し卵豆腐。」(19文字、特許第2051580号)、「卵殻微粉末を添加してなるとろろ芋。」(17文字、特許第3592302号)などがあります。その後、「半熟卵を内包する玉子豆腐。」(13文字、特許第3648346号)や「凍結ゼリー入り飲料。」(10文字、特許第2920767号)などを知りました。最後の10文字というのは凄いですね。

極めて短い請求項となっているものには食べ物関係が多いという印象があります。最短の請求項による権利化にチャレンジしてみるのはいかがですか?(弁理士 稲穂健市)

(54)【発明の名称】 凍結ゼリー入り飲料

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】 凍結ゼリー入り飲料。

特許第2920767号の特許公報の一部